

茨城県におけるがんの部位別年齢別罹患状況について ～茨城県地域がん登録事業平成 14 年罹患集計の結果から～

山浦 俊一* 大森 要子 篠原 嘉 入江 ふじこ

1. 目的

茨城県地域がん登録の情報をもとに、がんの年齢による罹患状況の違いを部位別に把握する。

2. 対象と方法

地域がん登録事業における平成 14 年罹患集計で登録された 10,516 件（男性 6,180 件、女性 4,336 件）を対象として、がんの部位別罹患割合を男女別に求め、同年の人口動態統計から算出した部位別死亡割合と比較した。また、年齢階級別に 5 歳刻みで部位別罹患率を男女別に算出して、全国年齢別推定罹患率（国立がんセンターがん対策情報センター平成 14 年罹患統計）と比較した。

3. 結果

平成 14 年罹患集計における DCO は 34.00%、I/M 比は 1.51 であった。

部位別罹患数は、男性で胃、肺、大腸、女性で乳房、大腸、胃の順に多かった。一方、部位別死亡数は、男性で肺、胃、肝、女性で胃、大腸、肺の順に多く、I/M 比では、男性で前立腺、大腸、胃、女性で乳房、子宮、大腸が高く、男女の胆嚢・胆管、膵臓、肝臓、食道及び男性の肺は低かった。

部位別年齢階級別罹患率では、食道、胃、大腸、胆嚢・胆管、膵臓、肺、前立腺で、いずれも 40、50 歳代以降、年齢とともに罹患率が上昇する傾向にあり、どの年代でも男性の罹患率は女性を上回っていた。肝では、男性で 70～74 歳において最も罹患率が高く、その後はやや低下傾向にあった。乳房では、30 歳代後半から罹患率の上昇がみられ、45～49 歳で最も高かった。子宮では、20 歳代後半から罹患率の上昇がみられ、35～39 歳と 55～59 歳にピークがあり、その後 80 歳以降で再び上昇していた。全般的に茨城県の罹患率は、全国推定罹患率に比べて低い傾向がみられた。

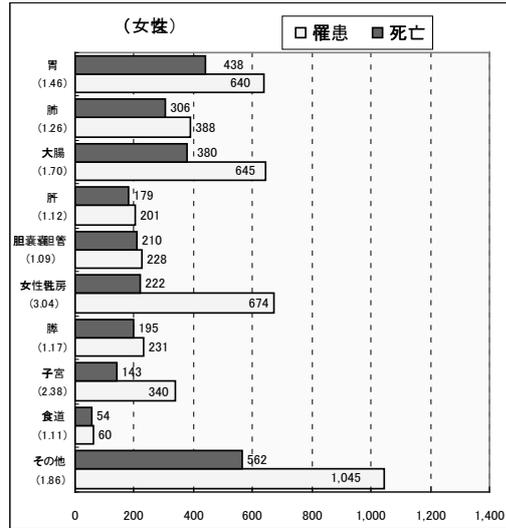
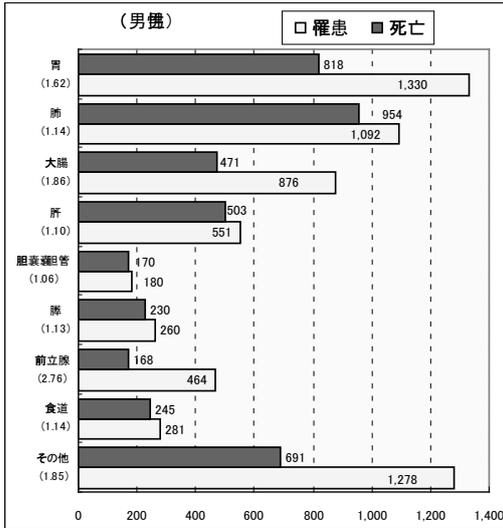
4. 考察

乳房、子宮では、他の部位に比べて、より若い年代で罹患率が上昇する傾向が認められ、年代層に応じたがん予防の普及啓発が重要であると考えられる。

全国推定罹患率に比べて、茨城県の罹患率は低かったが、登録精度の違いが大きく影響していることが予想され、今後、医療機関への届出協力依頼など精度向上に向けた取り組みが必要であると考えられる。

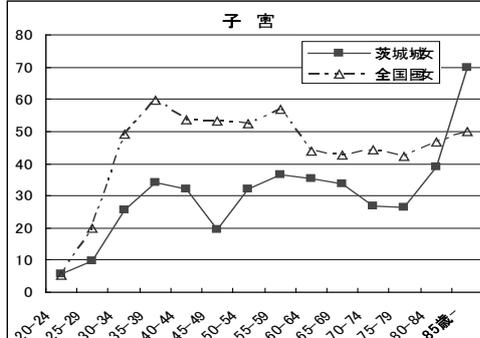
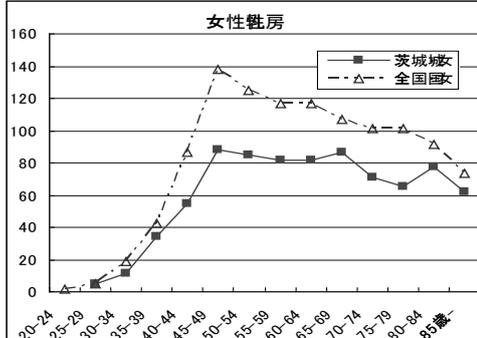
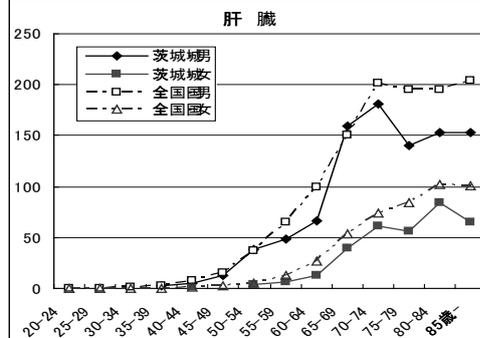
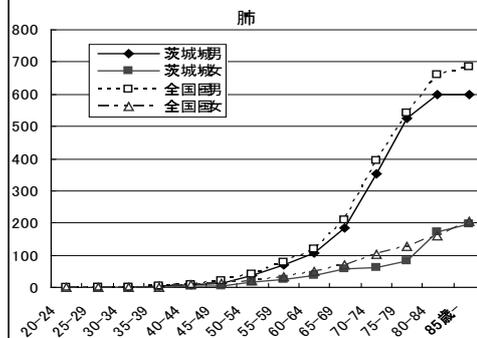
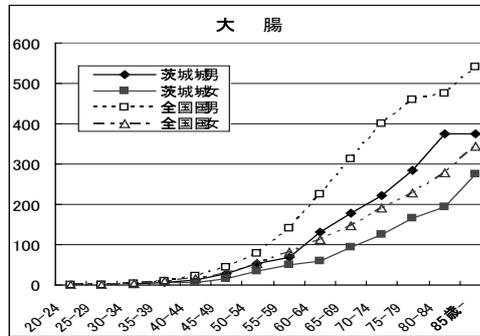
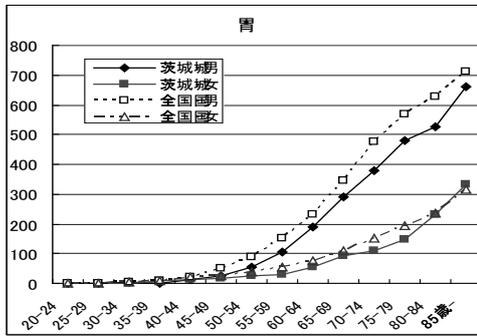
*茨城県保健福祉部保健予防課

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6



平成14年 部位別罹患及び死亡数

※ () 値はI/M比



平成14年 部位別年齢階級別罹患率 (人口10万人対)

※ 全国推定罹患率の出典：国立がんセンターがん対策情報センター平成14年罹患統計